

国史跡石の宝殿と関連史跡

魅力の深掘り研究報告



石の宝殿研究会

① 生石神社初代御旅所



最近まで「かりんさん」とよばれていた加利堂



○ 神吉久太夫

神吉久太夫は神吉氏部大権領部より出づ。元正六年七月十六日神吉葛城の時節信の家（豊後城主田原南の地）懐胎してありければ城を逃れて魚橋村に到り出井八郎外郎といふに思ひ一子吉太郎を産む。文禄二年七月吉太郎十六歳の時母に病死す。出井

◆ 印南郡誌

せしなりと、又曰く魚橋村正運寺の正門及生石村生石神社の御旅所なる能舞臺は同人の一建立なりと、

生石神社の御旅所なる能舞臺は同人の一建立なりと、又曰く魚橋村正運寺の正門及生石村生石神社の御旅所なる能舞臺は同人の一建立なりと、又米田村の内神風村の東邊なる、生石神社の大鳥居には孫次郎久太郎等が立寄る神吉氏久太夫の御旅所なり、然れども今其後諸説として其に異性を

現在の御旅所は四代目



初代御旅所
(北池村)



二代目御旅所
(生石村・大神神社)



三代目御旅所
(神社練場の上)



現在の御旅所

◆神輿の巡幸
(氏子村を周り五穀
豊穰を願う)



現在の御旅所は四代目

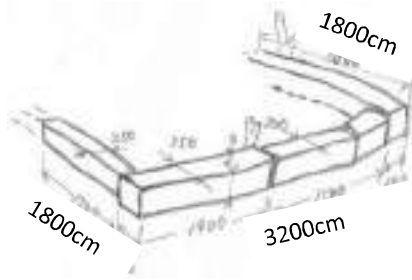


現在の御旅所

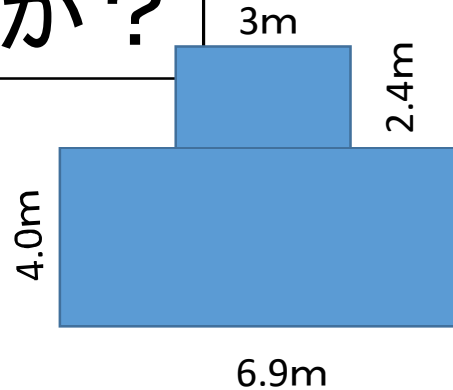
◆神輿の巡幸
(氏子村を周り五穀
豊穰を願う)



能舞台の敷石か？



北池;初代御旅所



現在の御旅所

敷石の幅3.2mは現在の御旅所4.0mに比べても少し狭い……(能舞台4.3mx6.0m)

★加利堂⇒仮のお堂では？

元は能舞台であったが後年生石村に二代目御旅所を造る時に少し小さいお堂に建て替えられたのではないか



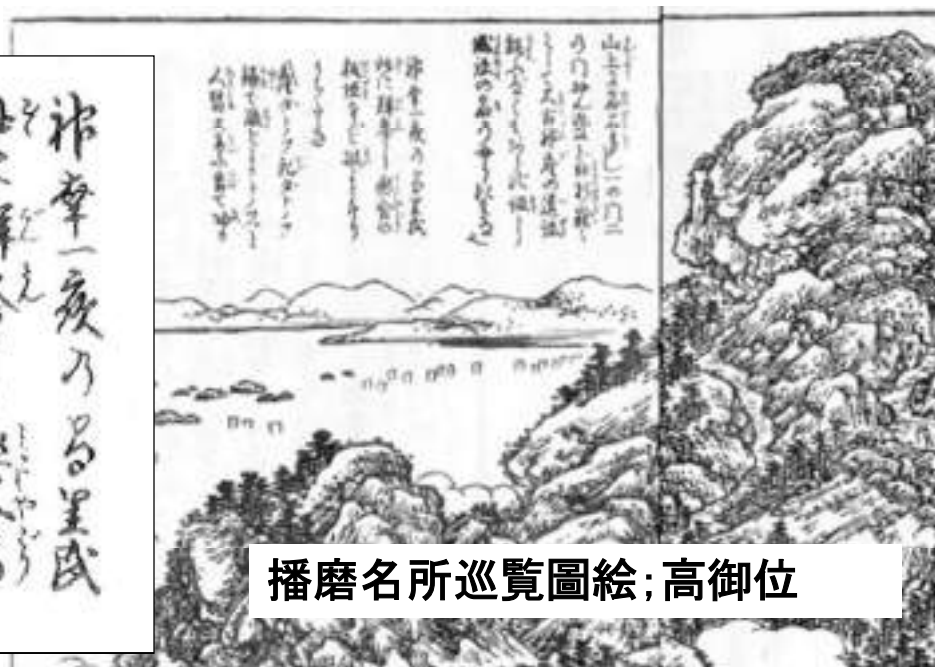
東側半分を発掘し
建屋寸法を確認してみよう





鎌腹

此の神幸より奥舎の
 板垣をくゞ破りとなり
 うらたてき
 刻度カトノフ死カトノフ
 極で腹をさるトノボと
 人皆大善味若てゆる

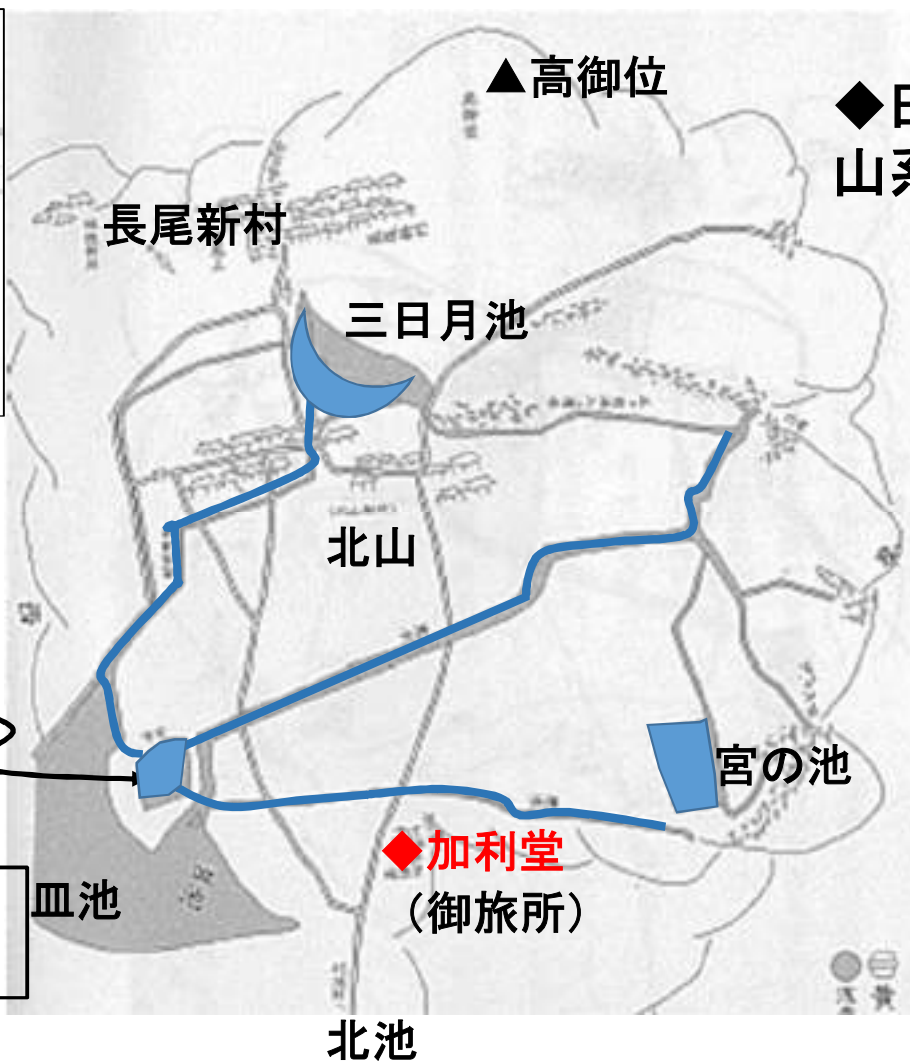


播磨名所巡覧圖絵; 高御位

神事赤ばやし
はこれが発祥
か？



★宵宮に山頂に神輿一基、成井より
同じく生石より神輿二基が山麓に
これを迎え高御位山との間で、
神幸行事をおこなう



◆田子池は昔より高御位の山系からの水を集めた池

(圃場整備で埋められた)

★御旅所まで神輿を担いできた氏子衆が近くの田子池で手や身体を清め、また喉を潤した池・・・との伝承話がある

田子池

皿池は江戸時代の開拓で造られた

②魚橋村の出井家の石碑

◆エビ山の墓地に来られている高砂の神吉様を訪問の
ところ貴重な諸資料を見せて頂きました



お手紙類
橋本先生、清水様



「ルーツのルーツ」
清水克隆著書



写真類ほか



出井家の石碑



橋本政次先生

★東京の清水様の要請を受け、昭和39、40年姫路の歴史家:橋本政次先生が石碑を調査され12章にわたる大作「神吉城の戦と出井・神吉氏の関係」を草稿されておられました

神吉頼定公の末裔の方が東京にも

出井家の石碑



エビの山のふもとの
神吉様の墓地

神吉頼定公の末裔の方

◆ **清水克隆様**・・・本家筋の末裔(東京)

「ルーツのルーツ」著者

神吉頼定公以降の先祖の過去帳を保管され橋本先生に調査を依頼されました

◆ **出井かの**

清水様の祖母;魚橋の屋敷に住んで居られた話を孫の克隆様に伝えた

◆ **神吉十郎様**・・・魚橋で医師(高砂)

後年清水様と手紙で交信
奥様が手紙類・資料を保管

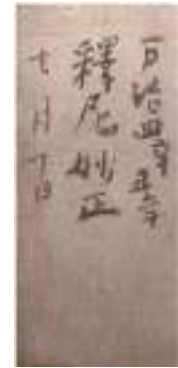
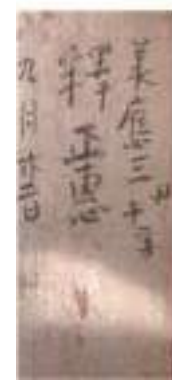
清水家の過去帳

清水家の東京の末裔の方
にお会い出来 過去帳を見
せて頂きました
(清水克隆さんの孫)

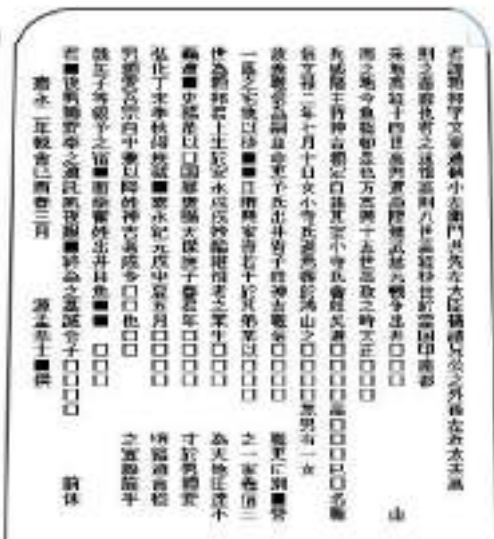


神吉頼定公

頼定公の側室



善四郎 同側室”孝” 出井かの



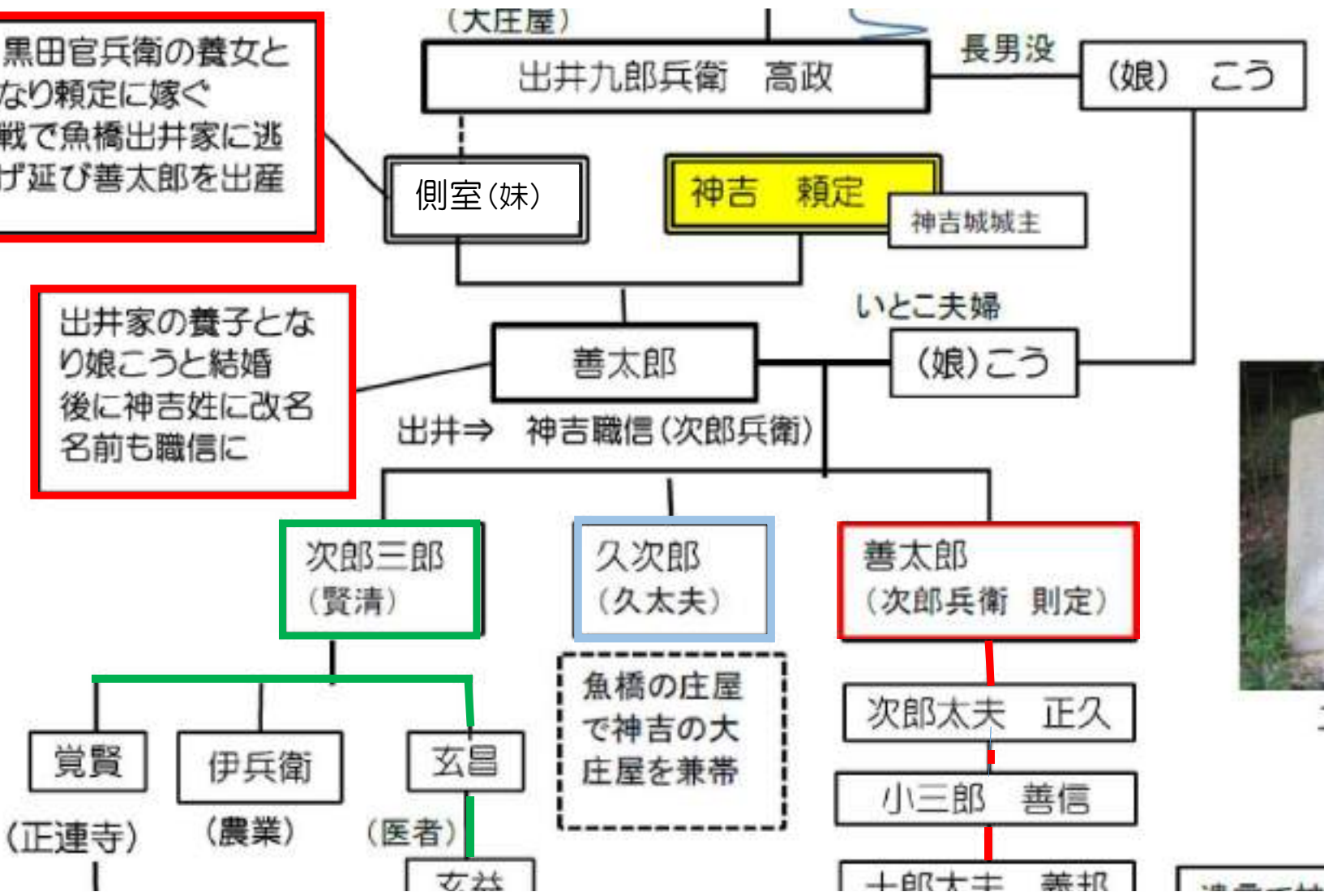
◆石碑の下段が剥落しており全文が読めない状況 推定も加えて読み込む

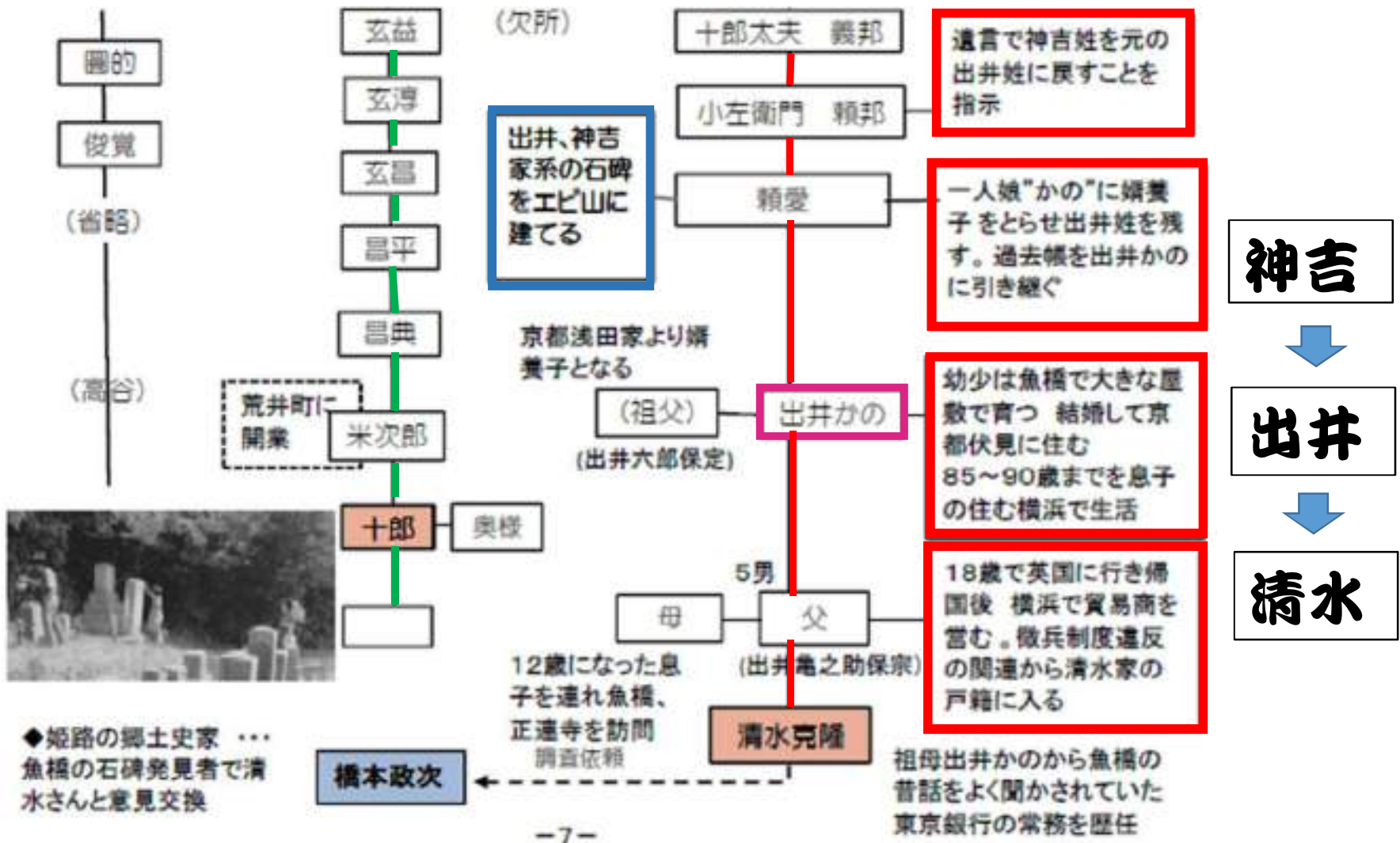
碑文内容・・・橋本先生の報告書より

- 1, 出井家の先祖は橋左近太夫で8世高経の時印南野に移し住む
- 2, 15世出井九郎兵衛高政が天正の神吉城の戦の時 神吉城主頼定が自害、小寺から来た側室は懐妊中で魚橋に逃げて職信を産む
- 3, 側室は文禄2年7月10日に亡くなり鴻羽山に葬られる
- 4, 出井家の養子跡取となっていた職信は養父出井高政の指示により神吉職信と姓を変える
- 5, ……義信三世頼邦祖考の業を継ぎしばしば藩侯から褒められる
- 6, 嘉永元年5月に没するが神吉姓を継ぐ者が多く 旧姓出井に戻すことが宿願であるとの遺言 跡を継いだ頼愛が遺托に従い碑に託して子孫に伝える

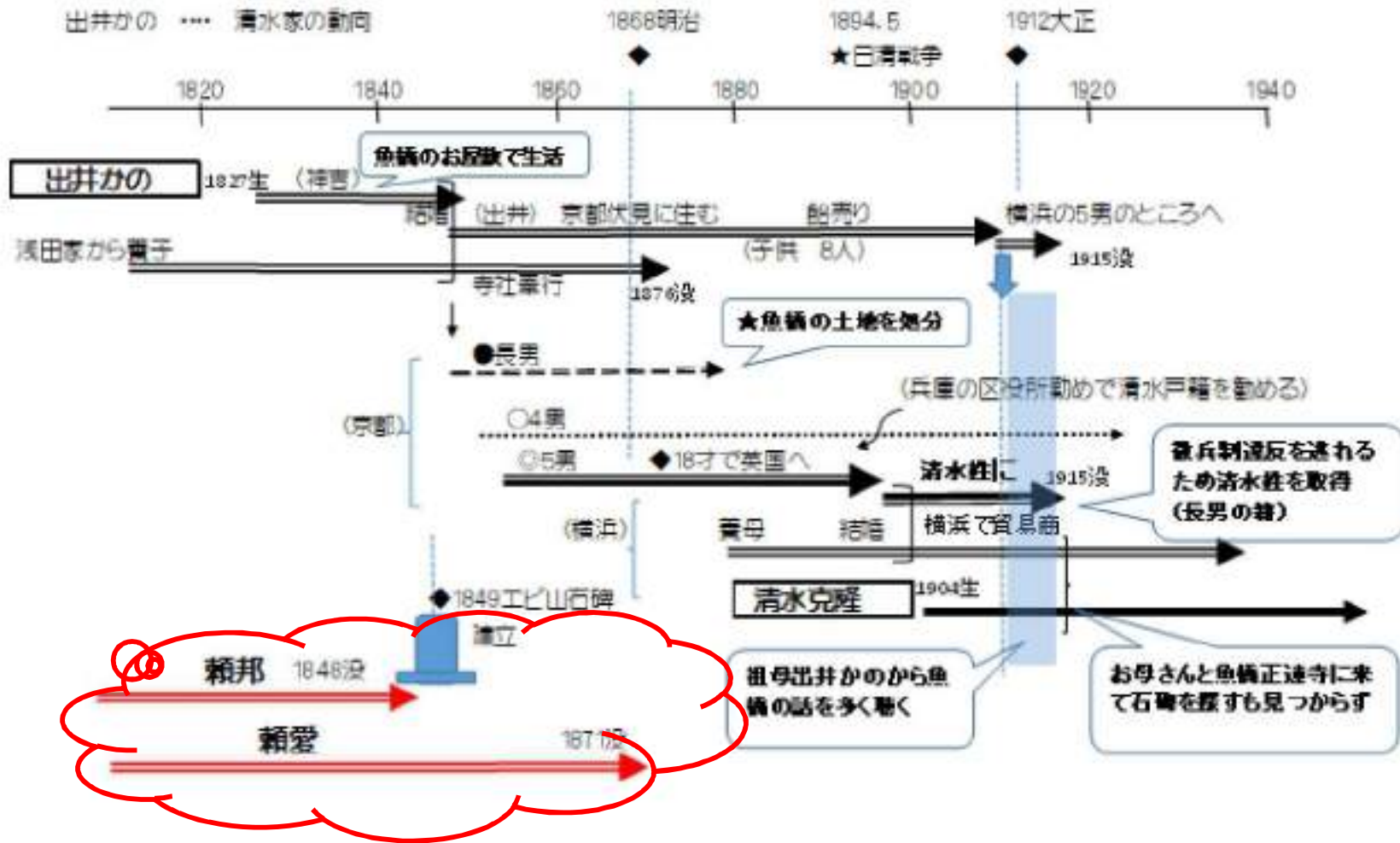
黒田官兵衛の養女となり頼定に嫁ぐ
戦で魚橋出井家に逃げ延び善太郎を出産

出井家の養子となり娘こうと結婚
後に神吉姓に改名
名前も職信に





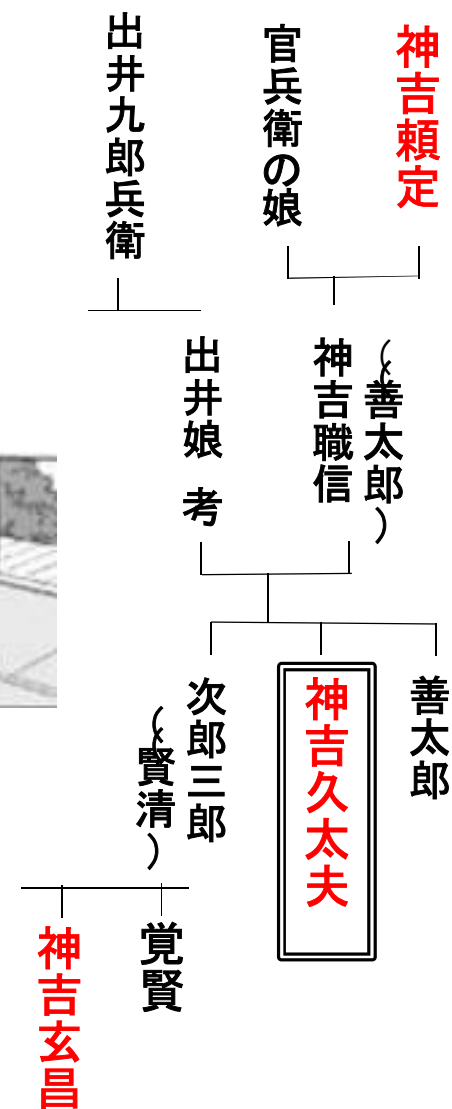
なぜ出井姓でなく清水姓か！！



印南郡誌の口碑はどこから

【印南郡誌より】

- ◆1578神吉頼定の側室(官兵衛の娘)が出井九郎兵衛と魚橋に逃げ延び、一男善太郎を産む
- ◆善太郎は出井の養子として育つ
- ◆善太郎16歳の時に結婚し神吉次郎兵衛職信となる
- ★職信の子供3人
 - 長男は善太郎
 - 次男は久次郎・・・のち**神吉久太夫**
 - 三男は次郎三郎・・・正蓮寺の養子となる賢清・・・**子孫に医者あり**



③ 神吉久太夫の歴史考察

★久太夫はどれだけ金持ちだったのか



原の大池



正蓮寺の正門



能舞台(イメージ)



西山新村開拓



生石神社灯籠



神爪一の鳥居

久太夫の事業

- 1、原の大池築造
・1640年頃
- 2、正蓮寺の正門
・1655年頃 再建
- 3、旧御旅所の能舞台
・1660年頃 建立
- 4、西山新村開拓
・1661年～ 7人が入植
- 5、石の宝殿の灯籠奉納
・1671年
- 6、**神爪一の鳥居建立**
・1680年

魚橋村



久太夫橋

2国

神爪の一の鳥居事件

神爪の一の鳥居建立 ・1680年

- ◆城崎で酒に酔い、姫路の殿さまに無礼を働き 帰ってから生石神社に願掛けして 何とか一家断絶をまぬがれお礼に鳥居を建てたとか。
(参道の無い鳥居)



なぜ大金持ち？

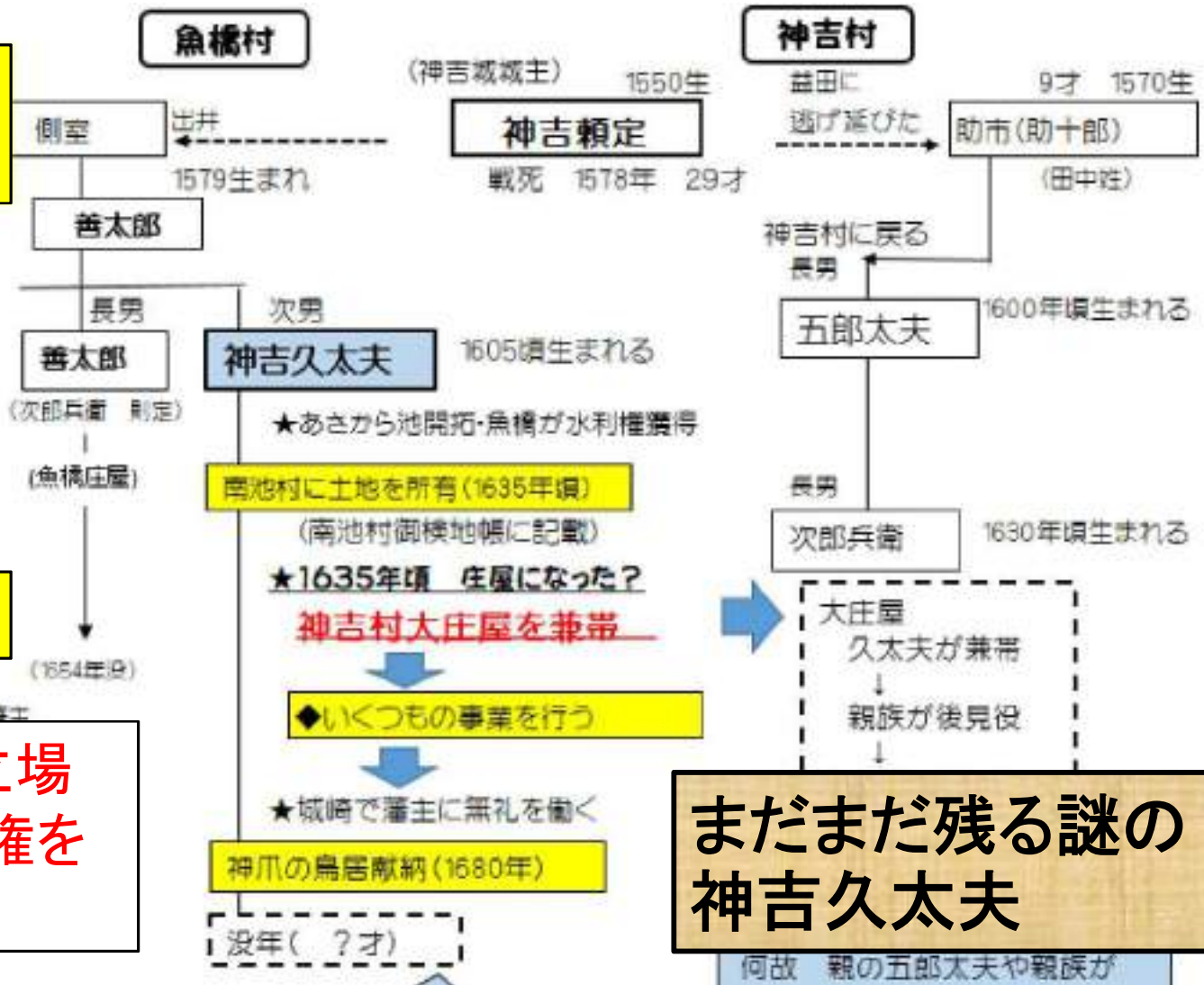
★千両箱が姫路まで飛び石の様に並んだ

久太夫は神吉村
大庄屋を兼帯した



あさから池の利権

◆頼定公の孫の立場
を利用し大きな利権を
得ていたか



まだまだ残る謎の
神吉久太夫

④真宗谷の宝塔跡

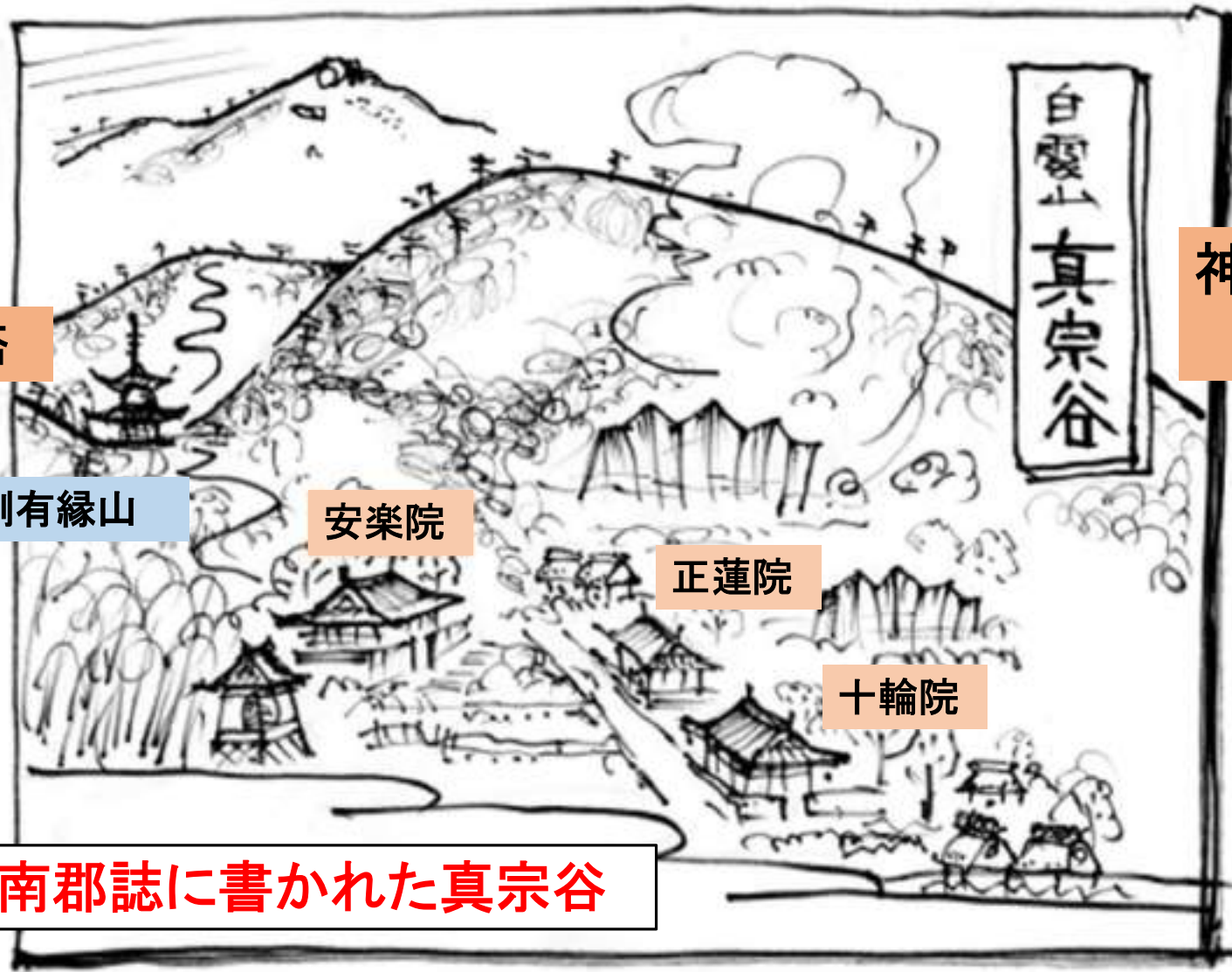


★真宗谷で開墾していた人から○印のところに祠がある

金剛有縁山經王堂



○ 無縁山 正徳寺 魚橋村
宗派 真宗大谷派 東本願寺末
ふ、満賢法師の實父左馬頭源満仲も亦當山に皈依して二千余貫の寺領を寄附す、満賢又西南の峰に於て壯麗なる寶塔を立て傳來の金剛經及び一切の經卷論釋を收め金剛有縁山經王堂と號す、(後人略して金剛の字を削りて有縁山と稱す)
の地を以て開墾し、弘治三年(1555)に於て、満賢は、此地に於て、名を法順と改む、文明三年(1471)海上上人より六字の名號を乞ひ受け播磨原村に歸り、東七屏風谷に於て白雲山真



宝塔

神吉村
白雲山真宗寺

金剛有縁山

安楽院

正蓮院

魚橋
白雲山信受院

十輪院

↓
元和元年
神吉村へ

印南郡誌に書かれた真宗谷

宝塔跡の見直し



現在の祠は
昭和44年の建造
高倉新一の銘
山岳信仰者か

◆玉垣と中の碑が異なる建
て替えられている



- ★左の祠の少し下に広い空地があり 宝塔はこの辺りに建っていたかと推測される
- ◆金剛有縁の地にとの記載は 金剛山安楽院のことではないか



⑤ 日本三奇は誰が言い出した

★橋 南谿の東・西遊記には“石の宝殿も奇なるもの”と一行のみ書かれているだけ

★印南郡誌に日本三奇と書かれたのが一番古いようだ

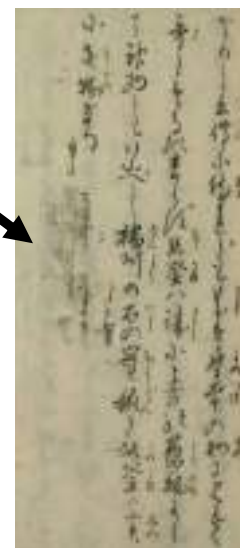
京都を出発し、すぐ明石、播州を旅した南谿の紀行文「石の宝殿」と「鶴林寺」を何とか探し出したいものです

◆鶴林寺は別のところで鐘のはなしが書かれている

印南郡誌



東遊記



- 1) 宮城県御釜神社の神釜で**鉄製** ◆製塩の釜
2) 兵庫県生石神社の石の宝殿で**石製** ◆水成岩;凝灰岩
3) 宮崎県霧島東神社の天の逆鉾で**銅製** ◆国造りの鉾
- ★(伝説)まだ、柔らかくドロドロした土地であった国土に塩を混ぜ合わせ 鉾でかき混ぜ固くして日本の国土を作った。
…この代表の3遺跡…**実に上手くできた話である**



塩釜



浮石



逆鉾



橘 南谿と交友関係にあったであろう山片蟠桃(神爪)が地元の石の宝殿を「日本三奇」と名付けたのではないだろうか



「山片蟠桃と升屋」有坂隆道著

◆蟠桃の蔵書リストに東・西遊記がある

71	70	69	68	67	66	65	64	63
西遊記	日本咏物詩	和漢人考	治綱経験	万国人物図	天地両球用法記 内和解 新製天地二球用法記 太陽距離歴解	怡顔齊蘭品	養生訓	西遊採譚
五卷	三卷	一卷	壹卷	二卷	拾卷 七卷	二卷	四卷	五卷

◆石の宝殿の紀行文が蟠桃の蔵書を保管している愛日文庫にないか問い合わせるも蔵書類は第2次世界大戦の頃焼失したとのことで発見できず



⑥浮石周辺の玉垣

★どんな人たちが寄付してくれたか 合計123本

企業 14本

医者 8本

旅館 4本

ほか氏子村や近郊の著名人

- 1) 多木肥料王は主に彫り直し
- 2) 稲岡福次さん 中国進出の時
- 3) 由井清太郎は高砂出身者か



◆玉垣製作者は
塩市石工;山本石太郎さん
昭和10年の建設

玉垣建設昭和10年の
前までは 木の柵か？階段は？

★シーボルトや明治の絵図に
も玉垣は書かれていない



◆石の階段は昭和和19年に
伊保村石工の石原さんが
彫りこんだ

★大正天皇
は階段がなく岩肌を登
られた



①あさから池

★あさから池はどんな広さだったか

- 1) 播磨国風土記; 池の原
- 2) 歌に詠まれた播磨池
- 3) 魚橋から取水し池尻から伊保の庄を潤す
- 3) 江戸の初めに水田に開拓 50hrの水田 (池は40hr・・700m角) 600~900石の増産

◆あさくてすぐカラカラになる池



◆JR、2国は土地tが低く阿弥陀北からトロッコで土を運び高くしました

久太夫は大きな利権を得たか

あさから池を埋め立てたのち 南池、北池、阿弥陀さらには伊保の庄の水田の用水確保のため、魚橋村が法華山谷川をせき止めて取水してきた。

★久太夫は庄屋となり大きな利権を得ていたのではないか？

★昭和40年頃の逆サイホンが出来るまで堰き止めし取水作業をしてきた



⑧ 鯛砂利と石屑運搬ルートについて

鯛砂利



★浮石を掘りこんだ石屑
1500Tonを高御位山の
鯛砂利に運んだ伝説

◆浮石製作の物部氏が勢力を
誇示する意図から石屑を遠く
山裾まで運んだものか



◆生石村の北の
息継ぎ井戸
南池へ行く分かれ道
にあった井戸



★志方成井ルート
仕方町誌に「なるい」は七
つ井の転音で そのうちの
一つが成井の字名;梅の水
にあったと

◆魚の橋・原の谷
の息継ぎ井戸
今も湧き水が活用され
ている



◆成井の息継ぎ
井戸 (梅の水)
護岸改修工事がされて
おり湧き水が多いのか?



◆北山村の田子池も息継ぎ
池として利用されたか

★お百姓さんの
野良仕事の息継ぎ

⑨ 竜山石工の作品



◆生石村仲右衛門
観涛處、天川橋



◆魚橋村太平治
阿弥陀石仏、牛谷石碑



★竜山の石工は技術力が
高く 高砂市以外で173基
もの石造品を建てている
(他は地元の石工が造る)

- ◆魚橋村 原文蔵
- ◆生石村 林兵衛
- 加西磯崎神社鳥居



⑩ 生石神社の建物



◆ 鐘楼は大ズワリ
にあった

末社の北の
大ズワリ



◆ 詰所は焼失
前は北側だけ

火災前

1807年に
火災で焼失

火災後



◆ 生石村の2
代目の御旅所



11 新田橋の今昔

- ★大きな竹藪はどこにあったか(洪水対策)
- ★通学に高い土手を通ったのはどこか
- ★小学校へ行くのに橋が2か所あった

竹藪
洪水対策で
小田原藩の
市丸又四郎が
竹藪を造り
村人を救う



北条街道の変遷



◆高い土手を崩し
トロッコで運び
川筋を埋める

